
「急性発症 CIDP の電気生理学的、免疫学的解析：GBS との急性期における鑑別点同定のための研究」に関するお知らせ

このたび、当院で診察を行った患者さんの検体を用いた以下の研究を実施いたします。
本研究は、埼玉医科大学総合医療センター研究倫理委員会の承認を得て、病院長による許可のもと行うものです。

本研究では、患者さんに追加でご負担をお願いすることはありませんが、残余検体やカルテ情報等を使用することに賛成でない場合、あるいはご質問がある場合は、患者さんご自身でもその代理人の方でも結構ですので、問い合わせ先までお申し出ください。お申し出いただいても不利益になることは一切ありません。

研究の概要について

1. 研究の対象となる方

2018年1月1日から2022年12月31日の期間に埼玉医科大学総合医療センターを受診し、急性発症の慢性炎症性脱髄性多発根ニューロパチー（chronic inflammatory demyelinating polyradiculoneuropathy：CIDP）と診断され、検査を実施した患者さんを対象としております。対照群は2018年1月1日から2022年12月31日の期間に埼玉医科大学総合医療センターを受診し、脱髄型ギラン・バレー症候群（Acute inflammatory demyelinating polyneuropathy：AIDP）と診断され、検査を実施した患者さんです。

2. 研究の目的

本研究は、急性発症のCIDPの電気生理学的、免疫学的解析：AIDPとの急性期における鑑別点を明らかにするための研究です。この研究は、病院長の許可を得ています。

3. 研究期間

病院長の許可後～西暦2024年3月31日

研究に用いる試料・情報について

1. 試料・情報の内容

診療録から病歴、治療歴、検査データ、入退院情報、薬剤情報に関して解析します。通常の診療範囲内で得られた血清および脳脊髄液の残余検体がある場合には髄液中のinterleukin-8（IL-8）を測定します。残余検体を将来の研究のために保管いたします。

この研究で得られた患者さんの情報は、【埼玉医科大学総合医療センター】において、研究責任者である山元 正臣が、個人が特定できないように加工した上で管理いたします。そのため、患者さんのプライバシーが侵害される心配はありません。

2. 試料・情報の取得方法

急性発症のCIDP、AIDPと診断された患者さんの検査を実施した際に生じた残余検体、検査データ

および診療記録等を用います。

2. 試料・情報を利用する者（研究実施機関）

基盤研究機関：埼玉医科大学総合医療センター

実施責任者

埼玉医科大学総合医療センター脳神経内科 助教 山元正臣（研究責任医師）

分担研究者

埼玉医科大学総合医療センター脳神経内科 教授 海田賢一

4. 試料・情報の管理責任者

埼玉医科大学総合医療センター 病院長 別宮 好文

5. 試料・情報の提供について

SRL に外注しサイトカインを測定した。

お問い合わせについて

ご自身の検体やカルテ情報等を利用されたくない場合、あるいはご質問がある場合には、以下の連絡先までご連絡ください。

利用されたくない旨のご連絡をいただいた場合は、研究に用いられることはありません。

ただし、ご連絡いただいた時点で、既に研究結果が論文などで公表されていた場合、結果などを廃棄することができないことがありますので、ご了承ください。

埼玉医科大学総合医療センター 脳神経内科 助教 山元 正臣

〒350-8550 埼玉県川越市鴨田 1981 番地

外線：049-228-3603(平日 9～17 時)

○研究課題名：急性発症 CIDP の電気生理学的、免疫学的解析：GBS との急性期における鑑別点同定のための研究

○研究責任（代表）者：埼玉医科大学総合医療センター 脳神経内科 助教 山元 正臣